

令和 8 年度

第 2 学年版

シラバス

Syllabus

授業計画の大要



富士見市立富士見台中学校

富士見台中学校の学習と評価について

富士見市立富士見台中学校

1 富士見台中学校における観点別学習状況、評定について

各教科には、それぞれ評価する観点（全教科とも3観点）が決められています。その観点にそって、一人ひとりの学習状況が評価規準に基づきA、B、Cで評価されます。そして、各学期の終わりに総括して5段階評定が決められます。

2 観点別学習状況の評価と評定の考え方について

観点別学習状況評価については、文科科学省から、「A」は十分満足できると判断されるもの、「B」はおおむね満足できると判断されるもの、「C」は努力を要すると判断されるものと示されています。なお、評価規準は、各教科の特性によって違うので教科から説明があります。また、評定については「5」は十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの、「4」は十分満足できると判断されるもの、「3」はおおむね満足できると判断されるもの、「2」は努力を要すると判断されるもの、「1」は一層努力を要すると判断されるものと示されています。

3 富士見台中学校の評価から評定への総括についての基本的な考え方

「2 観点別学習状況の評価と評定の考え方について」をもとに、評定について、以下のようになります。

観点別評価 (3観点A,B,C)	評定 (5,4,3,2,1)
AAA	5or4 *
AAB	4
ABB、BBB ABC、BBC	3
BCC	2
CCC	2or1 *

* 「5」は十分満足できると判断されるもののうち特に高い程度のものに対して、「A」は十分満足できると判断されるものとなっていることから、観点が「AAA」でも「4」である可能性があります。同様に「CCC」が「2」である可能性もあります。

評価規準は教科担当から説明があります。

4 普段の学習活動が評定の大切な資料となります

評価評定は、定期テストの点数だけでは決まるものではありません。普段の学習への取組（授業での成果）も評価に反映されます。例えば、宿題や提出物、ノートやプリント、小テスト、作品、実技テスト、授業での取り組みや発表、時には忘れ物の有無や授業態度などが評価の資料となります。

5 観点別評価について

「知識・技能」の評価

○個別の知識及び技能の習得状況について評価する。

「思考・判断・表現」の評価

○知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等が身についているかを評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

○「粘り強く学習に取り組む態度」及び「自ら学習を調整しようとする態度」とを総合的に評価する。

第2学年国語科シラバス

1、教科の目標・身につけたい力

- 【興味・関心】…言葉の面白さを知り、日本語の奥ゆかしさを感じる
 【話す、聞く】…自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高める。
 【書く】…様々な材料を基に自分の考えを深め、論理的に書き表す能力を身につける
 【読む】…目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身につける。
 【言語事項】…漢字や文法などの基礎的な言語事項を身につける。



2、主な学習の内容

- ・小説、随筆、説明文、古典など様々な文章の朗読および読解
- ・思ったこと考えたことの文章化（作文）や発表。
- ・文章の読解に必要な基礎学力（漢字、文法等）の習得。
- ・学習内容の理解度を図る確認テスト（中間・期末テスト等）

評価の観点と方法

1、評価の観点

- ① **知識・技能** B：言語についての基礎的な知識があり、場合に応じてある程度使いこなすことができる。文章やスピーチからある程度内容を理解することが出来る。
 ② **思考・判断・表現** B：文章やスピーチに対しての自分の考えや意見を持ち、言葉で伝えることが出来る。
 ③ **主体的に取り組む態度** B：授業の準備がなされている。提出物をやり終えて、期限までに出せる。授業中の発言・発表・態度が意欲的である。定期テストで授業の内容をある程度理解出来ている。

※Bの評価は観点の内容がおおむね満足できると判断されるものです。AはB以上に十分満足、CはBよりも努力を要すると判断されるものです。

2、評価の方法

- ◎ テスト（中間・期末・漢字テスト等の結果による到達状況）
- 授業における活動（意欲・態度・発言・予習・復習状況）
- 学習の成果および提出物（授業で書いたもの・ノート・ワーク等）
- スピーチ（発表および原稿の内容）

授業の心構えは…

- ・忘れ物をしない。
- ・積極的に発言する。
- ・予習、復習を心がける。

授業に準備するものは…

- ・教科書
- ・ファイル、ノート
- ・筆記用具
- ・その他先生から指示されたもの
ワーク・辞書等

各学期の学習です

	1 学期	2 学期	3 学期
主な学習内容	・見えないだけ 1 広がる学びへ ・アイスプラネット ・魅力的な提案をしよう ・枕草子 〔文法への扉1〕 2 多様な視点から ・クマゼミ増加の原因を探る ・情報を整理して伝えよう 〔漢字1〕 ◎書写—硬筆 3 言葉と向き合う ・短歌に親しむ ・短歌を味わう ・言葉の力 〔言葉1〕 ・メディアの特徴を生かして情報を集めよう	4 人間のきずな ・ヒューマノイド ・字のない葉書 ・表現を工夫して書こう 〔言葉2〕〔漢字2〕 5 論理を捉えて ・モアイは語る—地球の未来 ・適切な根拠を選んで書こう ・月夜の浜辺 6 いにしえの心を訪ねる ・平家物語 ・扇の的—「平家物語」 ・仁和寺にある法師—「徒然草」 ・漢詩の風景 7 価値を語る ・君は「最後の晩餐」を知っているか ・立場を尊重して話し合おう 〔文法への扉2〕 ◎書写—毛筆（書きぞめ）	8 表現を見つめる ・走れメロス 〔文法への扉3〕 ・描写を工夫して書こう 〔言葉3〕〔漢字3〕 ・鍵



第2学年社会科シラバス

1. 教科の目標

- ＜歴史的分野＞ 日本の歴史を理解し、社会で役立つ人を育てる。
- ＜地理的分野＞ 世界の国々や、日本の国土について理解を深める。

2. 主な学習の内容

- ＜歴史的分野＞ 近世の日本 開国と近代日本の歩み
- ＜地理的分野＞ 日本のさまざまな地域

3. 身につけたい力

- 日本の歴史について、基本的な知識を身につける。
- 国際社会に生きる日本人としての資質（知識・能力・行動する力）を養う。

授業の心構えは…

- 積極的に発言する
- 忘れ物をしない
- おしゃべりをしない
- 話をよく聞き、自分の頭で考える

授業に準備するものは…

- 教科書、資料集、地図帳等
- 授業が始まる前にきちんと準備しておきましょう

評価の観点と方法

評価の観点と方法

○3つの観点による評価

・知識・技能…テスト

- 地理 世界の諸地域について地域の特色を理解し、諸資料から地理に関する様々な情報をまとめている。
- 歴史 歴史の大きな流れを把握、各時代の特色を理解し、諸資料から地理に関する様々な情報をまとめている。

・思考・判断・表現…テスト、ノート、話し合い活動、調べ学習の成果物、発表

- 地理 地理に関わる事象の意義や特色、分布、位置などを関連させて考え、多面的・多角的に考察する。適切な資料を選択し、考察したことを説明したり、それらを基に議論している。
- 歴史 歴史に関わる事象の意義や特色、伝統や文化などを年代、推移、比較したり、関連や現在とのつながりに着目し、多面的・多角的に考察する。適切な資料を選択し、考察したことを説明したり、それらを基に議論している。

・主体的に学習に取り組む態度…ワーク、テスト、ノート、話し合い活動、調べ学習の成果物、発表

よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追求、解決しようとしているかどうかを授業、定期テスト等で評価していく。

※Bの評価は観点の内容がおおむね満足できると判断されるものです。AはB以上に十分満足、CはBよりも努力を要すると判断されるものです。

各学期の学習です

	1 学期	2 学期	3 学期
主な学習内容	＜歴史＞ ○近世の日本 ＜地理＞ ○地域調査の手法	＜地理＞ ○日本の地域的特色と地域区分 ○日本の諸地域 九州地方 中国・四国地方 中部地方 関東地方 東北地方 北海道地方 ○地域の在り方	＜歴史＞ ○開国と近代日本の歩み

家庭学習のポイント

1. 授業でやった内容を教科書・ワーク等で確認し、復習を積む。
2. 理解できなかった重要語句は、その意味を調べる。もっと知りたいという学習意欲を大切にする。
3. テスト前は問題演習中心に学習を進め、繰り返し解くことで基礎・基本の定着を確実にする。

第2学年数学科シラバス

1、教科の目標

- ◎学習手順を丁寧に押さえ、基本的な知識や能力が確実に身につくようにする。
- ◎数学的な感覚を大切に、生徒にわかりやすく親しまれるようにする。
- ◎計算力を高め、基本図形の性質を習熟させる。

2、主な学習の内容

- ・式の計算 ・連立方程式 ・一次関数 ・図形の調べ方 ・図形の性質と証明 ・確率

3、身につけたい力

- ・数学的見方、考え方を育てる。
- ・必要感を持たせ、基礎的知識を身につける。

評価の観点と方法

評価の観点と方法

1、評価の観点

① 数学的な知識・技能

- B：・数学の知識を正しく理解し、表現することができる
- ・数学的な処理が素早く正確に表現することができる
- ・定期テストの知識・技能を問う問題の正答率が高い

② 数学的な思考力・判断力・表現力

- B：・課題に対し、知識を活用し、考えた過程や結果をまとめ表すことができる。
- ・定期テストの見方・考え方を問う問題の正答率が高い。

③ 主体的に学びに向かう態度

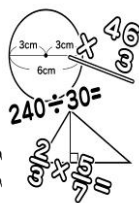
- B：・提出物をやり終えて、期限までに毎回出せる。
- ・授業中の発言・発表が意欲的である。
- ・定期テストの正答率が高い。

各観点の評価は上記の内容を総合的に評価する。

※Bの評価は観点の内容がおおむね満足できると判断されるものです。AはB以上に十分満足、CはBよりも努力を要すると判断されるものです。

2、評価の方法

- ・毎時間の授業への取り組み、定期テストの結果、小テスト
- ・授業ノートや授業ファイルの内容、提出物の状況・自己評価などを基にして、総合的に評価する。



授業の心構えは…

- ・授業の準備をしっかりとる。
- ・目的と意欲を持って授業に臨む。
- ・創意工夫してノートにまとめる。

授業に準備するものは

- ・教科書
- ・ノート
- ・ワークブック
- ・その他、单元ごとに必要な道具

各学期の学習です

	1 学期	2 学期	3 学期
主 な 学 習 内 容	1章 式の計算 ・式の計算 ・文字式の利用 2章 連立方程式 ・連立方程式 ・連立方程式の利用	3章 一次関数 ・一次関数とグラフ ・一次関数と方程式 ・一次関数の利用 4章 図形の調べ方 ・平行と合同 ・証明 5章 図形の性質と証明 ・三角形 ・四角形	6章 確率 ・確率の意味 ・場合の数と確率 7章 箱ひげ図とデータ活用 ・データの分析と問題解決 課題学習

家庭学習のポイント

1. その日に学習した内容を教科書で確認し、教科書や問題集の練習問題を解く。
2. ノートは、黒板の内容を写すだけでなく、先生の話聞きながらメモをとる。また、疑問に思ったところにしるしをつけておき、授業後などにすぐに聞きに行く。
3. 復習を中心に学習を進め、テストで間違えたところは必ずやり直し、基礎基本の定着を確実にする。

第2学年理科シラバス

1、教科の目標

* 自然に対する関心を高め、目的をもって観察・実験を行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然に対する理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2、主な学習の内容

化学変化と原子・分子

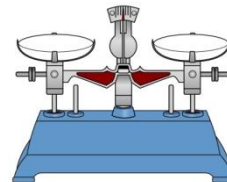
電流とその利用

生物の体のつくりとはたらき

地球の大地と天気の変化

3、身につけたい力

- * 自然の観察や自然にはたらきかける実験を通じて自然科学の基礎的な概念や法則を習得する。
(なぜなんだろう? どうしてなんだろう? もしこうしたらどうなるんだろう?)
- * 自然のしくみや規則性のすばらしさを知り、自然を大切に、生命を尊重する態度を身につける。



評価の観点と方法

1、評価の観点

○ 主体的に学習に取り組む態度

B: 提出物がきちんと出せる。

理科に対する興味・関心があるかどうか。

小テスト・定期テストの点数

○ 思考・判断・表現

B: 発問や課題を的確にとらえ、表現できる。定期テストの点数。

実験・観察の技能習得と図表を的確に読み、表すことができる。

○ 知識・実験

B: 定期テストの点数。 実験・観察の基本操作ができる。

※Bの評価は観点の内容がおおむね満足できると判断されるものです。Aは

B以上に十分満足、CはBよりも努力を要すると判断されるものです。

2、評価の方法

○ 授業における活動(意欲・態度・発言・実験観察の技能)

○ 提出物(実験観察の報告書・ノート・ワーク等)

○ 定期試験(出題内容により思考・技能・知識を評価)

授業の心構えは…

理科が好きで得意になるために

- 日常生活の中で不思議に思った事やすばらしいと思った事を書き留めておき、機会を見て調べる習慣を身につける。
- 積極的に授業に取り組み、予想→実験観察→結果の考察 この考え方の展開を身につける。

授業に準備するものは…

- 教科書、問題集など。
最初の授業で、担当教諭から伝えます。
- 実験観察等で必要なもの
※理科で実験を行うときは、ジャージ・体操着で!

各学期の学習です

	1学期	2学期	3学期
主な学習内容	1 化学変化と原子・分子 物質のなり立ち 物質の表し方 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	3 電流とその利用 電流の性質 電流の正体 電流と磁界	4 地球の大気と天気の変化 地球をとり巻く大気のような 大気中の水の変化 天気の変化と大気の動き 大気の動きと日本の四季
	2 生命の体のつくりとはたらき 生物の体をつくるもの 植物の体のつくりとはたらき 動物の体のつくりとはたらき 動物の行動のしくみ		

第2学年音楽科シラバス

1、教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

2、主な学習の内容

・歌唱 ・器楽 ・創作 ・鑑賞

3、身につけたい力

・合唱・合奏を通して豊かな音楽表現を味わい、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現の能力を高めることができる。

評価の観点と方法

1、評価の観点

① 知識・技能

- ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解している。
- ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。

② 思考・判断・表現

- ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図を持ちたり、音楽を評価しながら良さを味わって聴いたりしている。

③ 主体的に学習に取り組む態度

- ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2、評価の方法

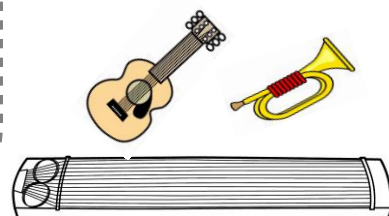
- ・出席状況
- ・授業中の課題に取り組む態度
- ・授業中の話し合い活動・発言・発表の様子や内容
- ・授業中の演奏の様子・内容
- ・自己評価カード等の提出の様子や記録してある内容
- ・鑑賞プリントの提出の様子や記録してある内容
- ・筆記試験・実技試験

授業の心構えは…

- ・美しさを追い求める心
 - ・力を合わせて音楽を作ろうとする心
 - ・さらにより表現をしようとする心
- を持って音楽室に来ましょう

授業に準備するものは…

- ・教科書（歌唱・器楽）
- ・合唱曲集
- ・アルトリコーダー
- ・配布されたプリント（ファイルを使用します。）
- ・筆記用具 など



各学期の主な学習内容

	1 学期	2 学期	3 学期
主 な 学 習 内 容	・校歌（表現） ・夏の思い出（表現） ・リズムチャレンジ（表現） ・アルトリコーダーLesson 3（表現） ・フーガト短調（鑑賞）	・クラス自由曲（表現） ・荒城の月（表現） ・アルトリコーダーLesson 4（表現） ・交響曲第5番ハ短調（鑑賞） ・アイーダから（鑑賞）	・サンタルチア（表現） ・ギター（表現） ・日本伝統音楽（表現） ・世界の諸民族の音楽（鑑賞）

第2学年美術科シラバス

1、教科の目標

「つくること」「味わうこと」などの美術の活動を通して、その喜びを味わい美術を愛好する心を育てるとともに、美術の基礎的な力を伸ばし、豊かな感受性や情操を養います。

2、主な学習の内容

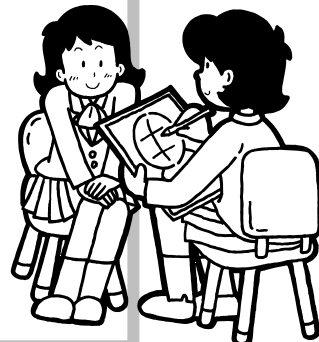
美術の分野は、絵や彫刻、デザイン、工芸、鑑賞に分かれています。本物のように、また心に浮かぶままに制作したり、生活に使うものや飾るものなどを制作したりします。

素晴らしい作品や工芸を見て味わうことも美術科の大切な学習です。

「私たちの生活から離れた美術とはならないように」ということを考えながら、指導しています。

3、身につけたい力

- (1) 意欲的に、また根気強く授業に取り組む力
- (2) 自分から美しさや楽しさや発見し、工夫して制作し表現する力
- (3) 私たちを取り巻くものの美しさや楽しさを感じ取り、生き生きと表現する力



評価の観点と方法

1、評価の観点

- ① **知識・技能** 造形的な視点について理解している。
 - ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
- ② **思考・判断・表現** 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
- ③ **主体的に学習に取り組む態度** 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

2、評価の方法

- 出席状況
- 作品そのものの評価（ワークシートも含む）
- 授業の様子、課題に取り組む態度
- 自己評価カードの記録、内容
- 鑑賞プリントの記述内容
- 定期テストは実施していません

授業の心構えは…

- **楽しく、そして自分に厳しく！**
 - ・集中し、最後まであきらめずに制作しよう。
 - ・忘れ物をなくそう。
 - ・おしゃべりをつつしもう。
 - ・作品や用具を大切にしよう。
 - ・後始末をきちんと行なおう。
 - ・持ち物や作品に名前を書こう。

授業に準備するものは…

- 美術は題材によって持ち物が変わりますので、教師の指示にしたがって忘れ物のないようにしてください。
- 2・3年生では用具や材料選びも、自分の工夫による取組が増えてきます。生徒諸君の制作の意図に合わせて、意欲的な活動を望んでいます。

各学期の学習です

	1 学期	2 学期	3 学期
主な学習内容	○本年度の美術科の内容 OBOX-ART ・素材との触れ合い ・空間構成 ・色彩の応用	OBOX—ART（立体分野） ○スクラッチ画（絵画分野）	○色彩の学習 ○ブッシュ画（絵画分野） ○鑑賞

※制作進度によっては内容が変更、追加になることがあります。

富士見台中学校 第2学年「保健体育」シラバス

【教科の目標】

☆運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動・体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。

☆運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

☆運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

★「体育分野」と「保健分野」ともに全学年必修

【評価の観点・方法】

評価を行うための3つの観点

運動や健康/安全についての

- ①知識および技能
- ②思考、判断、表現
- ③主体的に学習に取り組む態度

〈これらの観点を評価する資料〉

- ①について
 - ・運動の特性とルール of 習得
 - ・定期テスト
 - ・授業での観察（練習・ゲーム）
 - ・種目に応じた技能・スキルテスト
- ②について
 - ・自己やグループでの課題を解決するための練習、その中での工夫・修正等の気づき、他者との関わり等
- ③について
 - ・授業に向かう姿勢（出欠状況・態度・安全性等）
 - ・発言や学習カードによる記述

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	授業規律の確立 体育理論(1) 【体づくり運動】 (新体力テスト) (体育祭練習) 【器械運動】 (跳び箱運動) 【陸上競技】 (短距離・リレー) 【水泳】 (クロール/平泳ぎ/ 背泳ぎ/*バタフライ) 保健*健康な生活～	*授業のきまりや準備運動等の確認 *運動やスポーツが体に与える効果 *運動の仕方を工夫し、思いっきり動いて楽し しめながら体力を高める。 *切り返し系や回転系の基本的な技を滑ら かに、また発展系に挑戦する。 *滑らかな動きで早く走りスピードをつな ぐバトン受け渡しを身につける。 *スピードに乗った助走から素早く踏み切っ て跳ぶ（踏み切り動作を作る） *能力別に分かれ、各課題に取り組む。また 記録の向上や競争の楽しさ・喜びを味わい 各泳法を身につける。 *生活習慣病について…
2 学 期	体育理論(1) 【武道・ダンス】 ・柔道 ・ダンス (リズムダンス) 【陸上競技】 ・長距離走 保健分野 *傷害の防止	*運動やスポーツが心に与える効果 *相手の動きや変化に応じた動作から 基本となる技や得意技・連絡技を用い て攻防を展開する。 *リズムの特徴をとらえ変化のあ る動きを組み合わせるリズムカ ルに踊る。 *トレーニング方法の理解と自己に適 したペースを見つけ維持して走れる ようにする。 *心肺蘇生法（AED 講習） *交通事故/自然災害・/応急手当
3 学 期	体育理論(1) 【球技Ⅰ】 ・ソフトボール ・バスケットボール 【球技Ⅱ】 ・アルティメット 保健分野 健康な生活と 病気の予防②	*安全な運動やスポーツの行い方 *基本的なボール、バット操作、走塁を身に つけ簡易なゲームをする。 *ボール操作を身につけ仲間と連携し た動きでゲーム展開できるようにする。 *ボール操作と空間に走り込むなどの 動きによって展開するゲームができ るようにする。 *調和のとれた生活習慣、喫煙・飲酒・薬物 乱用の心身への影響

第2学年 技術・家庭科シラバス

1、教科の目標

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深める。

2、主な学習の内容

・エネルギー変換の技術(C分野) 情報の技術(D分野)・生活の自立と衣食住

3、身につけたい力

学習した知識や技術をもとに生活と技術の関係について考え、工夫し創造しながら実際に生活の中で生かす態度を身につける。

評価の観点と方法

1、評価の観点

- ・生活の知識・技能
生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。
- ・生活の思考力、判断力、表現力
生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身につけている。
- ・主体的に学習に取り組む態度
よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

2、評価の方法

- ・授業の準備、様子
- ・学習ノート、プリント
- ・製作の様子、状況、製作品の完成度
- ・ペーパーテスト
- ・実技テスト(包丁の扱い方等)
- ・提出物



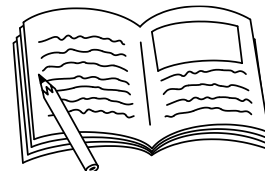
※1学期の評定は行わず、2学期に家庭科、3学期に技術科の評価が記載されます。
学年評価は技術科と家庭科をあわせて行います。ただし5と3で4とは限りません。
全体的な取り組み結果から判断します。

授業の心構えは…

・意欲を持ち、安全に気を付け積極的に取り組む。

授業に準備するものは

- ・教科書・ファイル・筆記用具
ジャージ上下
- ・ワークノート・エプロン
- ・三角巾・ふきん



1年間で学ぶこと

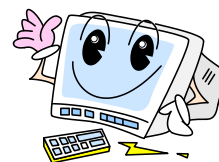
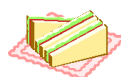
主な学習内容

- ・住まいのはたらき
- ・健康で快適な住まい
- ・安全な住まいと災害対策
- ・住まいと地域

- ・食事の役割
- ・健康と食事の関わり
- ・栄養素のはたらきと栄養の特徴
- ・栄養の特質と献立づくり

※前期： 4月～10月 (家庭)
後期：10月～ 3月 (技術)

- ・食品の選択
- ・調理の計画と実践
- ・調理実習
- ・
- ・発明創意工夫展作品制作



- ・電気エネルギーの利用例
- ・電気機器の安全
- ・エネルギー変換の製作
(ラジオ等制作キットを使用)

- ・情報とコンピュータ
- ・プログラムの構造と理解

第2学年英語科シラバス

1、教科の目標

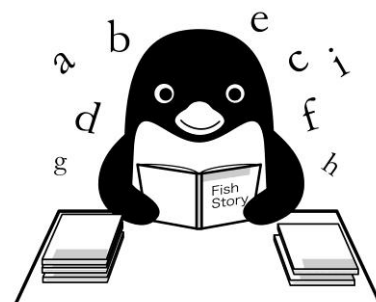
- 英語に親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろう。
- 基本的な文法事項を習得しよう。

2、主な学習の内容

基本的な文法事項及びコミュニケーション活動

3、身につけたい力

相手の意向をくみ取り、自分の考えや説明を伝えることができる。



評価の観点と方法

1、評価の観点

- 知識・技能
 - B:英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。
 - B:日常的な話題や社会的な話題について内容を捉え、自分の考え、気持ちなどを伝え合う技能を身につけている。
- 思考・判断・表現
 - B:目的や場面、状況などに応じて、必要な情報を捉え、自分の考え、気持ちなどを伝え合うことができる。
- 主体的に学習に取り組む態度
 - B:外国の文化に対する理解を深め、話し手、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を理解しようとしたり伝えようとしたりしている。

授業の心構えは…

やる気・元気・根気

授業に準備するものは…

教科書・ノート・ファイル
問題集

授業について

一人ひとりの力を伸ばすために、ペアワーク、グループワーク等、学習形態を工夫します。

※Bの評価は観点の内容がおおむね満足できると判断されるものです。AはB以上に十分満足、CはBよりも努力を要すると判断されるものです。

2、評価の方法

- ・授業参加への意欲、態度 ・提出課題 ・定期テスト ・小テスト ・パフォーマンステスト（スピーチ、スピーキングテストなど）
- などの各評価材料を、各観点の評価に使用していきます。そして、3つの観点を総合的に評価して、評定を出します。
（各評価材料については、その内容によって、特定の観点について重みづけするものもあります。）

各学期の学習です

	1 学期	2 学期	3 学期
主な学習内容	教科書 Unit0～3 動詞の過去形、be going to 助動詞 will、 SVOO SVOC 接続詞 when, that, if, because 不定詞 It is +to など Stage Activity1 自分の好きな日本食について発表	教科書 Unit4～6 have to 助動詞 must 動名詞 疑問詞+to+動詞の原形 be+形容詞+that 比較表現 (同等比較・比較級・最上級) など Stage Activity2 学校生活についての説明	教科書 Unit 7 受け身 Stage Activity3 町紹介マップ

第2学年道徳科シラバス

教科の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

評価の観点・資料・評定

【評価の観点】

①道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、人間としてのよりよい生き方を考えることができる。

②道徳的判断力

人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断することができる。

③道徳的实践意欲と態度

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとすることができる。

【評価の資料】

①教師の授業中の観察や事後の分析

②ワークシートの記述

③生徒による自己評価

【評定】

「道徳」では、数値的な評定は行わない。

授業の心構え

- ・道徳的価値について考える。
- ・自分の意見に自信をもつ。
- ・自分の意見を見つめ直す。
- ・他者の意見を認める。
- ・新しい見方、考え方を取り入れる。
- ・悩むことを受け入れる。

授業に必要な物

- ・教科書
- ・筆記用具
- ・その他教師から指示、配布された物

各学期の学習

	1 学期	2 学期	3 学期
主な 学 習 内 容	1 「できない」には価値がある—吉藤オリイ	13 日々を支える、散歩と朝ご飯—阿部詩	27 書道パフォーマンスの挑戦
	2 遠足で学んだこと	14 奇跡の一週間	28 やっちゃんのなやみ
	3 和食のころ	15 妹に	29 宝塚方面行き—西宮北口駅
	4 私のせいじゃない	16 水辻村の決断	30 田老の生徒が伝えたもの
	5 あの子のランドセル	17 みんなでとんだ！	31 人生でだいじなことは、
	6 「いじめ」について、あなたはと思う？	18 夜のくだもの屋	みんなゴリラから
	7 一冊のノート	19 本当の私	教わった
	8 六千人の命のビザ	20 宇宙人	32 私は十四歳
	9 魔法使いの少年—いつかの自分	21 注文をまちがえる料理店	33 夜は人間以外のものの時間
	10 「いいね」のために？	22 冬の使者「マガン」	34 気づき—ドッジボールと
	11 左手でつかんだ音楽	23 あいさつ	ぼくらの温度差
	12 祭りの夜	24 住みよい社会に	35 良心とのたたかい—「レ・ミゼラブル」より
		25 女子教育の夜明け—津田梅子	
		26 ゴール	

学習方法

- 1 読み物教材において、登場人物への自己関与が中心の学習
- 2 道徳行為に関する体験的な学習
- 3 問題解決的な学習